

# 新型 FIT のデザイン

Design of New FIT

奥 本 敏 之\*

Toshiyuki OKUMOTO

北 島 義 也\*

Yoshiya KITAJIMA

## 要 旨

新型 FIT は、全世界のスモールカーに求められている普遍的な価値、「デザイン」、「動力性能(取り回し)」、「経済性」、「使い勝手(広さ)」そして「安全・環境」をより高いレベルで実現すべく「Next New small」というグランドコンセプトで最強のスモールカーを目指して開発した。

その中でエクステリアデザインは、広い空間や先進感のある超フォワードキャビンと前傾姿勢のダイナミックな塊を表した「スーパーフォワードイングフォルム」というコンセプトで、新しいユニークなフォルムを実現させた。

また、インテリアデザインは広々とした爽快感と凝縮されたコックピット感を合わせもつ「先進パーソナルインテリア」をコンセプトとし、扱いやすく簡単なシートアレンジ等の機能進化の追求のみならず、操る楽しさをも表現した。

## ABSTRACT

The new FIT, designed with the goal of making it the “best compact car,” was created under the overall concept of the “Next New Small.” Universal values demanded the world over were realized in its compact-automobile design, engine performance (agility), economic value, versatility (space), safety, and eco-friendliness.

The design team created an exterior design that incorporates roominess with the advanced “super-forward cabin.” They combined it all with the “super-forwarding form” concept that expresses the dynamic ruggedness of the frontward-leaning frame giving the new FIT a unique feel and look.

For the interior, the designers created the new cabin under the concept of an “advanced-feel personal interior,” with the fusion of a compact cockpit and a roomy, exhilarating space. The result is enhanced functionality, including an easy-to-use, simple seat arrangement, in a new FIT that is a thrill to drive each time you slide behind the wheel.

## 1. はじめに

初代 Fit は 2001 年 6 月 21 日、スモールを革新するという考えのもと、世界に通用するスモールカーを目指し開発した。スモールカーとしてあるべき姿「燃費 MAX」「楽しさ MAX」「カッコ良さ MAX」この三つの MAX すべてを達成するコンセプトは市場に受け入れられ大ヒットとなり、現在世界 115 ヶ国以上にもおよぶ大変多くのお客様に喜びを持って愛され続ける商品となった。

約 6 年たった現在、ライフスタイルの変化や環境意識の向上などにより、世界的な広がりを見せているダウンサイジングの流れと共に、スモールクラスもそれまでの「足代わり」から「ファーストカー」への役割も担ってきた。

そうした中、スモールカーのグローバルスタンダードを目指す新型 FIT は、スモールカーとして普遍的な価値、「デザイン」、「動力性能(取り回し)」、「経済性」、「使い勝手(広

さ)」そして「安全・環境」を時代に合わせさらに進化させることがもっとも必要だと確信した。

デザインについては広い空間や軽快な走り、使い勝手を骨格・パッケージデザインから徹底的に進化させた。またスモールカーだからといって我慢すること無く、自分らしさを主張し誇りを持って所有していただけるクオリティの高い車を目指し開発をおこなった。それは世界のスモールカーの目指すべきコンセプトでもあり、それを高いレベルで実現することが最強のスモールカーになることだと考えた。

## 2. パッケージレイアウト

パッケージデザインはスポーティーグッドスタンス、広々空間、使い勝手進化のテーマを重視した「ZENSHIN-Cabin Compact」という、車全身がキャビン、前進キャビンといった意味合いをもつコンセプトでスモールカーの新しい

\*四輪開発センター

い骨格を表現した(Fig. 1)。

それらテーマを達成するために、初代 Fit に対しホイールベースを50 mm延長、トレッドも広げ、大径タイヤを車体の四隅に配置し、より低重心で安定感のあるたたずまいを表現した。フロントウインドウ下端を約 100 mm 前方に出し、先進的なワンモーションフォルムと前方に抜けるような広い空間を生み出し、クラスを超えた広さ感と爽快さを実現した。

また前後ディスタンスの拡大、埋め込み式ヘッドレストの採用により、ワンアクションでのダイブダウンと着座状態へのリバースができる、簡単に扱いやすいウルトラシートとした。

さらにはテンパタイヤのスペースを活用することで、最大約 60 L の大容量荷室床下アンダーボックスを新たに設け、スモールカーの限られた空間を有効に活用できるアイデアで便利さや使い勝手の向上をねらった。



Fig. 1 Package concept

### 3. エクステリアデザイン

エクステリアデザインでは、初代 Fit の強みである空間の広さと、軽快な走りのダイナミックさを融合させた「スーパー フォワーディング フォルム」をコンセプトとした。

先進感のあるユニークなモノフォルム骨格を、後ろ足で踏ん張って前に突っ込んで行くようなダイナミックな前傾姿勢で表現し、一目で新しい FIT とわかる元気なデザインとした(Fig. 2)。

徹底的に前に出したフロントピラーと後席頭上から前後に立体的に絞り込んだキャビン、引き締まったボデーから力強く張り出したリヤフェンダー体のリヤバンパ造型、張りのある塊からシャープなキャラクターが湧き出てくるイメージの面造型、これらの要素を取り込み表現することで先進性や躍動感のあるユニークなフォルムと高いクオリティ感を実現すると同時に、低燃費に効果のある空力性能も配慮したデザインを造り出した。

また伸びやかなサイドウインドウグラフィックスや、弓なり形状の極細フロントピラーと大型三角窓を採用し、爽快で優れた視界を達成している(Fig. 3)。

フロント廻りは、精悍さと親しみやすさを表現した大きくシャープなヘッドライトをフロントグリルに向かって絞り込み、若々しさや躍動感を印象付ける造型とした。

同時にコーナを絞り込んだ造型とし、小回りがしやすい取り回し性にも寄与するデザインとしている(Fig. 4)。

リヤ廻りではキャビンを絞り込み、バンパをサイドに張り出させることにより、パーソナルなイメージを表現し、また安定感のあるスポーティグッドスタンスも造り出した(Fig. 5)。

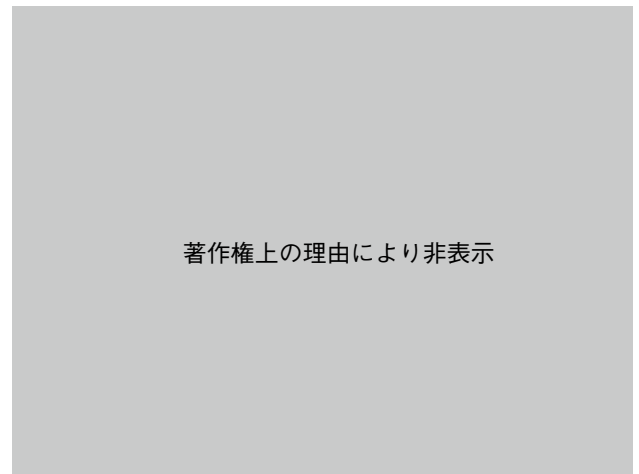


Fig. 2 Super-forwarding form



Fig. 3 Side view



Fig. 4 Front view



Fig. 5 Final rendering

#### 4. インテリアデザイン

インテリアデザインでは、広々とした爽快感のある空間と凝縮感のある新感覚のcockpit感を融合した「先進パーソナルインテリア」をコンセプトとした。

また容易なシートアレンジ等の機能進化を実現すると同時に、先進感とスポーティなデザインで、操る楽しさをも表現させた(Fig. 6)。

インストルメントパネルはアッパー面の造型を低くし、彫刻的なデザインで陰影を強調することで、前方に抜けるような空間や実寸法以上の広さ感を与えている。

またフロントピラーの前出しによる三角窓の大型化と、視線方向のピラー幅を約25 mm縮小することで、視界のパノラミック感を強調しながら、爽快感や視認性を向上させたデザインとした。



Fig. 6 Advanced feel personal interior

視認系は立体、大型メータでより見やすく、操作系はスイッチ類をドライバ側上部に配置し、使いやすくすることでドライバオリエンテッドなスポーティさを強調し、またそれ以外を広く見せる造型で、進化したcockpitデザインとした(Fig. 7)。

さらに荷室床下アンダーボックスのリッドを可変式にすることで、上下段に荷室を使い分けできる「ウルトララゲジ」のアイデアや(Fig. 8)、グローブボックスを上下2段にするなどといった工夫により収納やスマートな使い勝手を進化させた。

またシートの座り心地の向上やシートバック形状を工夫することでワンクラス上の乗り心地と広さ感・爽快感を表現したデザインとした。

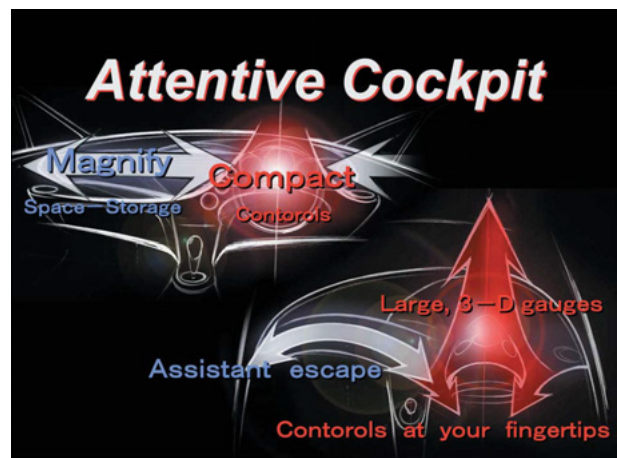


Fig. 7 Attentive cockpit



Fig. 8 Ultra luggage

#### 5. カラーデザイン

##### 5.1. エクステリア

エクステリアデザインの先進感とスポーティを表現するために“輝き”をテーマとした「Brilliant Exterior Color」と

いうコンセプトで力強く透明感溢れるカラーデザインを開発した。

新開発した BRILLIANT SKY M を 1.3 L のテーマカラーとし、青空の爽快感を表現した高彩度のブルーを採用。シェイド部が自然に赤みを帯びる色味で力強いボデーの面変化を強調した色となっている。

他に輝き感と内装のマッチングを考慮した4色を新開発し、さらに既存色をプラスした全12色で幅広いお客様を対象としたカラーラインナップとしている (Fig. 9)。

## 5.2. インテリア

エクステリアカラー同様に“輝き”をテーマとした「Brilliant Interior Color」というコンセプトで先進感、上質を追求した。黒基調の引き締まった空間にシートと加飾パーツが浮かび上がるメリハリのきいたエモーショナルなコーディネートをとらった。

1.3 L のシート表皮はラメが入ったドット柄とエンボス加工を施し、輝きが交差するような豊かな表情を演出。また加飾にガンメタリック塗装をコーディネートし、カジュアルなスポーティ感を表現した室内空間としている (Fig. 10)。



Fig. 9 Exterior colors



Fig. 10 Interior colors

## 6. RS デザイン

スポーティで若々しさを求めるユーザーや、車を知り尽くした本物志向のダウンサイザーをターゲットに絞った RS は、力強くダイナミックなエクステリアとスポーティで品のあるインテリアデザインとした。

そして道路を堂々と帆走するような、力強い存在感と安心の走りを表現し RS グレードの個性の明快化をねらった。

### 6.1. エクステリア

「よりダイナミック」「より力強く」をコンセプトに、低重心、ワイドスタンスを強調した力強い走りを予感させる存在感を追求した。

フロント廻りはガンメタリック色のアッパグリルにシルバーメタリックモールを配し、大開口ロアグリルと低くワイドに張り出した専用バンパデザインにより精悍な表情とした。

サイドビューでは大径タイヤを強調した 16 インチのアルミホイールデザインに加えて、さらに低く、躍動感あるサイドシルガーニッシュ造型により精悍さとスポーティさを高めたデザインとした。

また、リヤビューはディフューザを模した黒いモチーフを低い位置に設けた専用バンパデザインとし、存在感のあるスポーティさを演出している (Fig. 11)。



Fig. 11 RS exterior design

RS のテーマカラーである PREMIUM DEEP VIOLET M は光輝材にガラスを採用し、ガラス独特の透明感や奥行き感で、RS グレードのターゲットユーザであるこだわりを持った本物志向のダウンサイザーにふさわしい輝きを表現した。

## 6.2. インテリア

洗練されたムードをまとった「アダルトコンテンポラリー」というコンセプトのもと、大人の上質なスポーティを表現した。シート表皮にはスエード調ファブリックを採用したシングルステッチを施し、1.3 L 同様ラメのドット柄とあいまって、上級車と遜色の無い、高いクオリティを実現した。

さらにセンターパネルにサテン調ブラウン塗装を採用し、メーターリングやステアリング加飾などの機能部品周辺をメタリック塗装でシャープに際立たせ、黒基調の引き締まった空間とのコントラストで内装全体をコーディネートしている (Fig. 12)。



Fig. 12 RS interior design

## 7. まとめ

実力の高い競合車が多数存在するスモールカークラスで、初代 Fit は高い商品力をもって愛され続けて来た。

新型 FIT は最強のスモールカーを目標に、FIT の強みであり、スモールカー普遍の価値である、「デザイン」、「動性能(取り回し)」、「経済性」、「使い勝手(広さ)」そして「安全・環境」を骨格・パッケージデザインから徹底的に進化させた。

その結果、運転する楽しさを表したダイナミックで未来感のあるフォルムと、ワンクラス上の上質で爽快感溢れる室内空間を実現する魅力あるデザインを開発できたと信じている。

初代に引き続き世界中のお客様の生活にフィットし、愛され続ける FIT となってくれることを願っている。

### ■ 著 者 ■



奥本 敏之



北島 義也